



おーい！くじらぐも

Vol.25 2023年（令和5年）7月号

発行人：(福)健翔会 相談支援センターくじらぐも

所在地：埼玉県行田市小見1141番地1

TEL:048-580-3634 FAX:048-554-8814

MAIL:kujiragumo@kenshokai.net

発行責任者：くじらぐも センター長 細川竜太

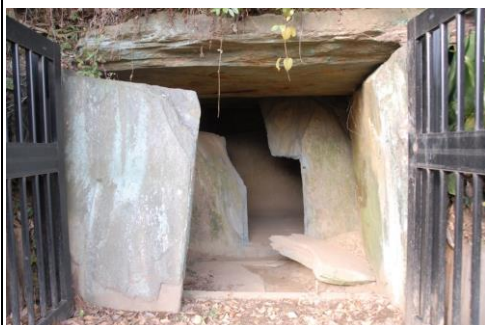
福祉サービスを利用するためには「くじらぐも」が作る『サービス等利用計画』が必要です。

「くじらぐも」は障害者総合支援法により、障害者・障害児に対し相談支援事業を提供する健翔会の第4号事業所です。

まずは、お気軽にお悩みや心配なことなどをご相談ください。一緒に「できる方法」を考えます。



行田市が中心となり近隣自治体と連携し「御墳印」の販売を始めました。(↑は熊谷市の御墳印)



御墳印とは、御朱印の古墳版で古墳を来訪した際の記念印としてもらえます。(↑は行田市の小見真願寺古墳)



各古墳の販売先で料金を支払います。あなたも歴史口マンに浸りながら「御墳印」を集めてみませんか♪(↑は行田市の地蔵塚古墳)

『チック症の姪っ子から学んだこと ～正しい知識と根拠～』

みなさんは「トゥレット症候群」「チック症」をご存じでしょうか。勝手に体が動く「運動チック」、声や音が出る「音声チック」に分かれ、その症状が1年以上続く場合、トゥレット症候群と診断されます。原因は、はっきりとは解明されていませんが、神経伝達物質が関係しているということもわかってきています。

私の姪っ子も、この症状があり、それに気付いている家族はとても心配し、自分を責めて苦しんでいるのも見てきました。全ての方に伝えたいことは、この症状の正しい理解とまわりの対応です。家族の愛情不足とか家族の関わり方の問題では決してないということ。そのうえで、指摘をしない、フォーカスしない、そっとしておくのがよいとされています。ただ、家族として「黙って見守ること」は簡単なことではありませんよね。私もそうでした。家族が苦悩している場面を見ては、何とか助けてあげたい、そう思っても何もできず、自分を責めたくなる気持ちを無理やり抑え込んで、その繰り返しでした。しかし、結局は黙っていられず、自分の子育てや夫婦の違うところでストレスが出てしまう。

今考えると、家族や自分たちは何を心配しているのか？何を想像して恐れているのか？自分たちの何を責められているような気持ちなのか？このような思いを自問自答してみたり、信頼できる誰かに相談してみるのもいいのかなと思いました。

黙ってられないのは、心配しなくていいと言われても心配してしまうのは、起こってもいいことを想像してしまうのは、大切だから、幸せでいてほしいからです。まずは、正しい知識と根拠を知って、たくさん想像して、たくさん心配して、結局行きつくところはここですね。(笑)

今の姪っ子には、症状はほとんどなくなりました。ただ、緊張するイベントや嫌なことがあったとき、めずらしく症状が出ている姪っ子の姿に、「本人なりに頑張っているんだな」「こうやって乗り越えていくんだな」とたくましく思うおじさんです。(笑)

<7月のトピックス>

あまり人混みの得意ではない私でも知っている7月のお祭りと言えば「熊谷うちわ祭」。7/20～7/23で開催され、12台の山車・屋台が市内を巡行し、3日間で、のべ75万人の来場があり盛大に挙行されます。そして、お祭も少しずつ時代とともに変化が見られるようになりました。誰もが来場しやすいようにと、市役所通りのコミュニティひろばには、車イスの方がそのまま入れる障害者トイレの設置や、熊谷の酷暑をしのげるようにと、随所に体の不自由な方が休めるテントの設営などが進んでいます。江戸時代から続く伝統や古き良き時代のものも残しつつ、誰もが楽しめ、参加しやすいお祭りのシンボルになってくれるといいですね。